

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	多文化共生のまちづくり推進事業							
団体名	岡山市国際交流協議会							

***** 事業のポイント *****

岡山市には、約1万人の外国人市民が居住しており、年々増加傾向にあるなか、外国人市民が地域参画を果たしていくためには、地域での取組が必要不可欠となってきている。

岡山市国際交流協議会では、多文化共生を推進する団体(NPO等)、町内会などの地域団体、大学などの教育機関と連携して、外国人市民が地域のコミュニティに参画し、日本人市民とともに地域を支える一員となれるよう、文書の多言語化や通訳等に関する支援を行っている。

その他、ふれあい講演会や日本文化紹介講座の開催、あいフェスティバルコーナーの設置等により、外国人市民と日本人市民が相互理解を深める場を提供し、多文化共生のまちづくりを推進している。

助成年度 区分	平成22年度 地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	382千円
------------	--------------------------	------	-------

事業の内容、成果等

【事業目的】

行政機関、多文化共生を推進する団体(NPO等)、町内会などの地域団体、大学などの教育機関と連携して、外国人市民が地域に溶け込み、日本人市民とともに地域を支える一員となれるよう、支援することを目的としている。

【事業実施に至る経緯】

岡山市には、約1万人の外国人市民が居住している。現在まで、岡山市では外国人にも住みやすい町づくりを進めるため、岡山市外国人市民会議を設置し、受けた提言の実現に向けて、様々な多文化共生施策を実施してきた。

しかし、行政側で行なう施策には限界があり、多文化共生社会実現の重要な柱である外国人市民の地域参画を実現するには、地域住民の協力が必要不可欠であることから、本協議会では、岡山市等とも連携し、民間の立場から市民ぐみで多文化共生のまちづくりを推進していく事業を実施することとした。

【事業の概要】

1. 多文化共生推進モデル町内会の運営支援

外国人市民が地域に溶け込み、地域社会の一員として活動できるよう「町内会」が率先して取り組み、他の地域へのモデルとなる「多文化共生社会推進モデル町内会」を募集し、平成22年2月に2つの町内会(御野学区連合町内会、津島学区連合町内会)を指定した。

モデル町内会としての運営については、実質的に、平成22年度から開始し、後述のとおり、地域・大学の関係者などと連携して様々な取り組みを行っている。

・ 町内会加入チラシの多言語化

岡山市安全・安心ネットワーク推進室発行の町内会加入案内チラシを多言語化(英語・中国語・ハングル)し、2モデル町内会へ提供した。

モデル町内会においては、チラシを町内会の掲示板や留学生が多く在籍する3大学(岡山大学・岡山商科大学・岡山理科大学)の掲示板などに掲示と、配布を行い、町内会活動への理解・加入を呼びかけた。

・ 夏祭り、文化祭等の地域行事のチラシ・ポスターの多言語化

外国人市民に地域の行事に気軽に参加してもらうことにより、地域住民との交流を図るとともに、日本文化や地域への理解を深めてもらうことを目的として、町内会主催の夏祭り、文化祭等の地域行事のチラシ・ポスターの多言語化(英・中・ハングル)を行い、外国人市民の参加を呼びかけた。



みの夏祭りでのフィリピン料理出店



みの夏祭りでの中国籍市民による胡弓ステージ

・ 多文化共生社会推進モデル地区連絡会議の開催

町内会の代表者、大学の留学生担当者に参加してもらい、モデル町内会を運営するに当たっての意見交換・情報の共有を目的として、連絡会議を開催した。

2. 多文化共生推進コーディネーターの登録・支援

多文化共生社会の推進をサポートする「岡山市多文化共生推進コーディネーター」を登録し、学校や地域において、翻訳・通訳を支援した。

《主な内容》

- ・ 日本語とその他の言語間の通訳・翻訳
- ・ 日本人市民と外国人市民との相互理解のサポート
- ・ 多文化共生社会実現に向けた啓発
- ・ その他多文化共生社会実現に向けた必要な事項

3. 多文化共生推進ネットワーク会議の開催

多文化共生社会推進に向け、外国人市民や外国人市民グループを支援している団体等で構成する多文化共生推進ネットワーク会議を開催し、相互のネットワークの構築や情報交換を行なった。

当会議のメンバーは現在17名。(平成23年11月末現在)

※ 平成22年度実績

平成22年9月30日、平成23年3月10日

4. 国際交流ふれあい講演会・日本文化紹介講座の開催

さまざまな分野で国際交流に携わる外国人市民や日本人市民が、交流の中で経験したことやそれぞれの国の

文化などについて講演した。

また、外国人市民を対象に日本文化を紹介する講座も実施することで、相互理解を図った。

※ 平成22年度実績

- ・ 国際交流ふれあい講演会(7回) 5月、6月、8月、10月、11月、1月、2月開催
- ・ 日本文化紹介講座(3回) 7月、9月、12月開催



国際交流ふれあい講演会
「ケニアと日本の違い」



日本文化紹介講座
「抹茶を味わう」

5. あいフェスティバルコーナーの設置

岡山市人権フェスティバルの会場内に「あいフェスティバルコーナー」を設け、外国人市民による文化紹介、物産品販売、各国自慢の料理の販売を行ったほか、ステージにおいて民族パフォーマンスを披露した。13カ国の外国人市民が参加した。(平成22年12月5日実施)



ステージ出演風景



ワールド屋台出展コーナー

【成果】

多文化共生社会推進モデル町内会の運営については、町内会加入及び夏祭り等の町内会行事について、チラシ等の多言語化を行い、掲示・配布をしたほか、町内会役員や大学職員などが外国人市民へ直接参加を呼びかけるなどの取り組みを行った結果、現在までほとんど見られなかった、外国人市民の地域での行事への参加を実現したという点では、一定の成果をあげることができたといえる。

その中でも、盆踊り等の日本文化に触れることができる夏祭りには、それぞれ50名程の外国人市民の来場があっ

た。

また、モデル町内会における、チラシの多言語化、行事等への通訳については、全て「多文化共生推進コーディネーター」を活用することで、経費を節減できたとともに、このような民間ボランティアを活用することで、市民参加による多文化共生のまちづくりを推進することができた。

平成22年から開講した日本文化紹介講座については、毎回多数の外国人市民が参加し、国際交流ふれあい講演会とあわせて、外国人市民と日本人市民が相互理解を深める場となっている。

その他、岡山市人権フェスティバルのあいフェスティバルコーナーに参加した外国人市民や来場者から、「いろいろな国の食べ物が食べられて良かった」、「ステージでの演奏などが良かったし、いい体験ができて良かった」、「いろいろな体験ができて勉強になった」、「他の国々の方と少しずつだが、話ができ良かった」のような意見があり、日本人市民及び外国人市民が触れ合いを通じて、相互理解を深めることができた。

【苦勞した点・工夫した点】

多文化共生社会モデル町内会において、苦勞した点としては、多文化共生に関わる地域の現状や課題について、現在まで地域において話し合う場が存在しなかったため、当初は情報の共有が困難であった点が挙げられる。そこで、それらの情報共有と連携を目的として、多文化共生社会モデル地域連絡会議を開催し、各町内会長、各大学の留学生担当者及び岡山市国際交流協議会の担当者が一堂に会し、相互に情報の交換を行うことにより、お互いが抱えている諸問題について意見交換・共有することができたほか、地域と大学との連携を図ることができた。

また日本文化紹介講座等の各種行事に外国人市民はもちろん日本人市民の参加も合わせて募集するなど、本事業全体を通して、出来る限り、日本人市民と外国人市民が共に楽しめる場の提供に努めた。一方通行ではなく、双方向の交流の場を設けることにより、相互理解が深まり、多文化共生のまちづくりが推進されていくものと考えている。

【今後の展開と展望、課題等】

本市の多文化共生のまちづくり推進事業の目玉ともいえる多文化共生社会推進モデル町内会であるが、まだまだ手探りの点が多く、課題は多い。

多言語化したチラシの配布などを通じて、外国人市民が地域社会に参加するきっかけ作りはできたものの、地域社会の一員として溶け込むまでには至っておらず、目標とする外国人市民の町内会への加入については、現在のところ目立った効果は現れていない。

また、地域で活躍するボランティアである「多文化共生推進コーディネーター」についても、ある程度、活躍の場を提供できているものの、まだ充分とは言えず、広報活動に努めるとともに、人材の育成・確保についても継続して力を入れなければならない。

当事業については、即効性のあるものではなく、継続していくことにより一定の効果が現れてくるものと考えている。本協議会は、今後も継続して行政と民間のパイプ役を努めるとともに、地域や大学等との連携を一層強化しなければならない。今後は、現在行っている各種の取り組みを継続・拡大していくとともに、より有効な手段・方法を検討し、多文化共生のまちづくりを推進していきたい。